

会 議 録

平成21年4月16日調製

審議会等名	平成20年度 第2回 生涯学習推進会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成21年3月30日(月) 午後1時30分～午後2時32分		
開催場所	三条市役所三条庁舎 第2委員会室	傍聴者	なし
		報道機関	なし
出席者氏名	生涯学習推進会議委員		
	丸山正夫委員 小林邦雄委員 岡田竜一委員		
	内山鐵太郎委員 堀善一委員 桑原晴美委員		
	三 条 市		
	金子生涯学習課課長 近藤生涯学習課課長補佐		
	小林生涯学習係長 山田主事 武藤主事		
	(欠 席 者)		
議 題	田中正男委員 森久委員 米山俊彦委員 渡辺素文委員		
	(1) 組織機構の見直しについて		
	(2) 平成20年度三条市生涯学習実施計画・実施状況について		
	(3) 生涯学習手帳の作成について		
発言者	(4) その他		
	発言内容等		
金子課長	会議に入る前に、欠席者の連絡をしたい。田中会長、森委員、米山委員、渡辺委員より欠席の連絡が入っている。本日は4委員が欠席となる。		
丸山副会長	組織機構見直しについて事務局より連絡をお願いしたい。		
金子課長	組織機構見直しは、昨年度大きな機構見直しがあった。生涯学習課の関連では変更はないが、大きな変更について説明する。		
	一点目は、商工観光課から観光に関する事務が離れ、商工課となった。二点目は、観光に関する事務が地域経営課へ移管され、営業戦略室の事務となった。三点目は、小中一貫推進室が教育委員会の中に設けられた。以上三点については名称の変更のため、資料を見ていただきたい。生涯学習推進会議については、本質的に変わりがない。		

丸山副会長	<p>資料について質問があれば出してもらいたい。</p> <p>では、私から質問したい。私は文化団体協会に在籍しているが、市長と文化団体協会との懇談の中で、生涯学習課を教育委員会から市長部局に移した効果についての説明があった。説明内容としては、市長部局に移したことにより、今まで以上に様々な分野との連携、また一体感が生まれ、スピーディーな連携が出来るようになったとのことであった。</p> <p>今回の会議資料を見た中で、連携をすすめる中で庁内での生涯学習推進会議の担当者会議が大切である。10月と12月に、2回開かれている。</p> <p>市長部局に移った後1年経過したが、この移管のことについて課長の考えをききたい。</p>
金子課長	<p>市民部へ移管されたことで、市民部各課との連携を進めている。具体化していることとしては、中心市街地である（本町1丁目）を中心とした民家等の歴史的建造物の調査がある。残存している歴史的建造物の保存活用をはかりたい。生涯学習課文化財係で調査するが、三条市の景観保護につなげたい。この事業は都市計画課と関連している他、中心市街地活性化の点で商工課、まちづくりの関係で地域経営課、営業戦略室との関係をもつ調査でもある。このことは、生涯学習課が市長部局となったことで連携を密にできたことの1つと考えている。また環境問題の取り組みについても、これまでは環境団体の方でやっていたが、すでに公民館と環境団体との連携でやった実績もある。</p> <p>さらには健康関係事業と子育て関係事業も、公民館と各課との打合せをして、事業や講座の分類や調整を行うなど、連携が今まで以上に密になっていると感じている。</p> <p>来年度までにもう少し具体的な取り組みを報告できるようにしたい。</p>
丸山副会長	<p>期待している。次に、議題2「平成20年度三条市生涯学習実施計画・実施状況」について事務局より説明をお願いしたい。</p>
小林係長	<p>今回の資料のまとめ方としては、平成20年8月に行った会議の中で出た改善点を反映し、昨年度との比較が出来るような資料とした。</p> <p>資料により、主だったところを説明する。</p> <p>〈以下、各事業の説明〉</p> <p>P2 家庭教育講演会については、計画にはなかったが新たに実施した事業である。</p> <p>P9 家庭教育講座、子育て講座についてはこれまで社会教育の重要事項で公民館が直接関わっていたものだが、公民館と子育て支援課が話し合い、事業の区分を行った。</p> <p>P25 通学合宿については、この事業は県内でも珍しい事業である。これま</p>

小林係長	<p>では中央公民館と下田公民館の職員を中心として実施していたが、21年度は団塊の世代の力を借りた内容で実施していきたい。昼は学校、夜はグリーンスポーツセンターで子どもが自主的、主体的、協力的に行うようなことを市民の力を借りながら、仕掛けていきたい。</p> <p>P105 生涯学習推進会議の庁内担当者会議については内部事務事業ということで記載しなかったが、前回の会議で話が出たため記載することとした。今後もさらに連携を進めるために、担当者会議で事業のスクラップ&ビルドをすすめたい。</p> <p>P106 生涯学習フェスティバルについては協力を得たい関係団体(生涯学習インストラクターの会)と調整がつかず見送る。議題3で話をするが、生涯学習手帳を作る事で別の方向から生涯学習意欲の喚起と啓発を図っていきたい。その他、事業の総数については、19年度3月の時点で事業数は1年間で339事業あった。前回の20年8月では330事業、今回の21年3月は320事業であった。事業数は減っているが、スクラップアンドビルドを進めた結果減っているものなので事業数的には横ばいである。</p>
丸山副会長	トータルの事業数を入れてもらいたい。
堀委員	今回の資料は、前回のものよりわかりやすい。実際、事業をやっている中で、「いつでも、どこでも、誰でも」の観点から事業の計画を作っていると思うが、その点について(いつでも、どこでも、誰でも受講ができるのか)お教えいただきたい。
小林係長	基本的にどの事業も、市民全体に対して「いつでも、どこでも、誰でも」参加できる。ただし事業の性質上、参加者等が限定されるものもあるが、基本的にはどこでも、誰でも、いつでも参加できる講座を開設している。
堀委員	資料を見ると、事業も幅が広がっており、生涯学習課も把握しきれないと思う。一つ一つの事業について、数字で押さえるだけでなく、内容を精査していくことが必要である。
丸山副会長	今の堀委員の意見について、事業の幅が広がっているが、その各課での事業を網羅するという点ではどうか。
金子課長	確かに計画を作ったが、結果に対しての評価は生涯学習課ではしておらず、何講座やったかというような数字だけの把握となっている。別の観点になるが、三条市総合計画の中では、行政評価といって、一つ一つの事業に対して各担当課が評価を出している。これからの課題や、年度ごとの進捗状況などの評価は行政評価で出ていると思う。それをどの程度受け込ませられるか、検討したい。
丸山副会長	もっと詳しい内容は個別でやっている(公民館運営審議会など)。生涯学習

丸山副会長	課がそれらの全てを見ていくことは時間もかかる。全体を見て、すべてが網羅されているのか確認するなど、まとめる立場が良いのではないかと思う。
内山委員	私は出張トークを活用して、(老人会から委員会として出ているが) 講師を探している中で、気楽に探すことの出来る講師リストを作ってもらいたい。
小林係長	生涯学習人材バンクに延べ534名の登録がある。これを活用してもらいたい。
桑原委員	一般の人が人材バンクを知らない。市役所の中でも、知らない人がいる。
丸山副会長	生涯学習課で学習相談を実施しているので、各委員からも一声掛けてもらいたい。
近藤補佐	出張トークは政策推進課が実施している。生涯学習の視点でやっているものもある。行政の職員が行って説明している。
桑原委員	高齢者を対象として実施している、「いきいきサロン」の計画は年配者がしている。 若い人と違いどこに行けば情報があるかなど、わからないようだ。
近藤補佐	人材バンクの存在と活用についてはPRをしっかりとしていきたい。何かあれば生涯学習課へ一報いただきたい。
丸山副会長	次に議題(3)に進む。「生涯学習手帳の作成について」事務局からの説明をお願いしたい。
小林係長	生涯学習推進手帳は、生涯学習推進会議の中で丸山副会長より提案されるなど、以前から話があったものである。目的としては、三条市民等の、推進計画に位置づけられている事業への参加を促進していくことで、生涯学習の推進を図るもの。これは県のいきいき県民カレッジを参考にしたもので、受講講座に応じてスタンプを押していく。一定の単位が取れたら、褒章をしていく仕組みとしたい。
丸山副会長	生涯学習手帳について、実施時期はいつか。検討段階か。
金子課長	21年度の前半には実施したい。意見をもらって付加させたい。
堀委員	1講座1単位としているが、もう少しハードルを下げることで参加しやすくなるのではないか。建築士会でも同じようなことをしている。また個別団体に計画した事業についても申請し、許可されれば単位が出るような仕組みとしてはどうか。
金子課長	公民館で実施している華道などは把握できるが、民間でやっているものについては、把握しきれない。内容は変わるものではないが、線引きが難しく検討課題としたい。
丸山副会長	事務手続きなど難しい問題が出てくる。
金子課長	公的なものはよくて民間はダメなのかなど、線引きが難しい。

内山委員	ハードルを下げるということで行くと、250単位だと難しいのでは？ハードルを下げる方向で考えてほしい。
丸山副会長	長期講座の取り扱いや、単発事業などはどうするか。また数回連続の同一講座の考え方はどうするのか。
小林係長	内部で協議した中で250と500とした。理由としては長期講座をベースに考え、週に2回通うと、1ヶ月で8単位になる。長期講座であれば2年通えば250に達するが、他方で、単発の講座への参加者に対する配慮が必要である。より良い基準が作れればと考えている。
小林委員	数的にはやはりハードルが高い。
丸山副会長	単発で講座に出たい人もいる。多くの人に幅広く講座を受けてもらうこととしては、質的な物も考慮したポイント獲得の仕組みが必要ではないか。
桑原委員	県民カレッジでは、事業によってポイントを変えている。市も同じようにしてはどうか。
小林係長	長期講座を継続してやっている人など、すぐたまる人はたまっていく。生涯学習推進の観点で考えると、講座の量をこなせばよいというだけでなく、いろいろな方面で講座参加した時にポイントがたまるような仕組みも検討したい。
丸山副会長	仕組みを工夫した方がよい。またポイント用のスタンプはどのようなものかを考えているのか。どの公民館で受けたのか分かるようなものか？それとも全市的に同じものか？
小林係長	スタンプを配布し、各事業ごとに押ししていくようなものを想定している。今後つめていきたい。
丸山副会長	献血手帳のように、いつ何を受けたかが分かるようなものとして作成していただきたい。
桑原委員	それであれば日付も必要である。
丸山副会長	自己管理で分かるような内容に検討してもらいたい。
岡田委員	なるべく薄くし、携行しやすく色を変えるなどしてはどうか？
小林係長	札幌市が実施しているものとしては、2冊目、3冊目になると手帳の色が変わっていく。岡田委員さんがおっしゃったようなものを行っている。手帳の種類についても検討しているところである。
岡田委員	使って励みになるような手帳にしたい。それを考えると、見て内容が分かるようなものにしてもらいたい。
丸山副会長	他に意見はないか。
岡田委員	紛失した場合の再発行はどうするのか。スタンプの数など、管理は難しいが、最初の説明をしっかりとしなければいけない。

内山委員	ポイント管理は難しいため、ポイントは自己管理としてはどうか。
桑原委員	紛失の際の説明を手帳にしっかりと明記しておく。
小林係長	手帳の履歴管理は難しい。県のいきいき県民カレッジでは再発行はしないと している。再発行は原則として行わないことと考えている。アナウンスをし っかりしたい。
小林委員	手帳の再発行はするが、ポイントはなくなるということにしてはどうか。 そうしないと、受けても今後ポイントをもらえないと誤認する人もいる。
小林係長	検討したい。
丸山副会長	手帳は三条市オリジナルのものを作っていただき、生涯学習の推進に役立 ててもらいたい。その他の検討議案はあるか。
金子課長	生涯学習推進会議は19年より2年間に渡り、今期は今回が最後の会議とな る。2年間の活動に、本当に感謝している。
丸山副会長	推進委員の任期は2年であり、今日が最後の会議となる。2年間にわたり、 貴重な意見をきかせていただいたことに感謝申しあげたい。

(閉会 14:32)